

婦唱夫随

ずーっと、船頭のつもりでいたが、いつの間にか後ろに座ったお客のようになっていことに気が付いた。

我が家に於ける僕の立ち位置である。

・・・・・・・・・・・・・・・・

残念ながら、かなり以前から僕は妻の手の平の上で世帯主然としていただけだったようだ。

それを感じはじめたのは、妻が朝日新聞のトッポ下に掲載されるコラム「天声人語」の書写を復活し、しかも何か閃いて最終行から書く姿を見てからであった。

妻の言動の次元が変わったように思われた。

それまでは、

例えば世間の話題について、新聞で云えば政治経済、国際面については僕がほぼ把握し、必要なら説明する。

逆に、妻は社会三面記事や小説・文化・芸能記事、それと記事下の世俗的な話題が専門で、これ



はというものを教えてくれて、二人で一人前の情報を共有するのが日常であった。この場面では、やや僕が主導的な立場でなかったかと思う。

ところが、妻の「天声人語」への取り組み方が変わってからであろうか、新聞の一、二面記事も目を通すようになって、僕の説明は不要。逆に僕の知らないことにも及ぶようになったのだ。

そうこうする内、歴然と認識したことは・・・

・記憶力 昔から妻に頭が上がらず、お手上げ！

・記録力 どうでもよさそうな些末のことまでた

め込んで、これもびっくり！

・地道力 千二百超のマス目を埋める漢字・パズル

に黙々と打ち込む姿に呆れ果て！

・負けない手強い抵抗力、コロナ感染の僕とは対照的に元気な免疫力など、どうみても強い生命力！さらに、突飛な一言力、意表を突く発想力に仰天する・・・・・・・・

我が家はすっかり「夫唱婦随」で無くなったのである。

完